

第二十一回（株）USEN 番組審議会 議事録

開催日時：平成 19 年 7 月 13 日 11：00～

開催場所：（株）USEN ミッドタウンタワー33F

F07 会議室

出席者 委員：小林亜星、有馬祐行、山本武司、渡辺英夫、湯川れい子（順不同・敬称略）

放送局側：7 名

議事内容

1. 取締役挨拶

2. 副委員長選任の報告

山本武司氏、新副委員長に就任

3. 会社動向、放送事業についての報告

4. 番組課題

- (1) T4 チューナーの使用感について
- (2) USEN 音楽放送の今後について自由討論

5. 番組審議

- T4 チューナーにおいて曲名表示機能が備わったことは、画期的な進歩であり、これによって、放送中の楽曲名が即座にわからないという従来の大きな欠点が補われ、商品価値が大きく向上した。この新しい機能を、もっと宣伝材料とすべきである。
- 曲名表示方式については、曲名が長い場合に文字が途中で切れる等の制限があるが、これらが改善されると尚よいだろう。
- 出力部において、ボリュームを経由する出力とライン出力の間に音量レベルの差異があるので、改善すべきである。
- 以前の機種より音質が格段によくなった。クラシック等においてはカルテットの四声それぞれまでよく聞こえるようになった。この点も評価できる。
- 業務店における使用においても、チャンネルを固定せずいろいろな番組を試していただけるよう、曲名だけでなく、番組ガイドの表示機能があるとさらによい。
- 曲名が自動表示されると便利な反面、「曲名を推理する楽しみ」を損なう可能性もあるので、曲名を知りたい時にボタンを押すと表示されるようにするとよいのではないか。
- アンテナを他業者と提携して共有することも検討すべきだろう。
- アンテナにオリジナルカラーを用いたり、ロゴを大きく入れるなど、機器のファッションブルさ、デザイン性を追求することも USEN 音楽放送のプロモーションにつながると考えられる。
- 一般ユーザーの需要とのバランスが重要ではあるが、より尖った音楽を好むユーザーの需要を満たすことも考えていくべきである。例えばワールドミュージックであれば、個人ではなかなか手に入れられないようなワールドミュージック（アラブ音楽等）、ハワイアンであればイージーリスニングではなく「さすが USEN」と思われるような本格的なもの…等の放送も期待される。
- 70' s Hits、80' s Hits などの番組は、10 年分のアーカイヴを活かして、よりバリエーション豊かに選曲すべきである。
- ジャンルで区切った番組ではなく、選曲のセンスで聞かせるような番組も需要が高いのではないか。そ

の際、「I-40 昭和ちゃんねる」のように、著名人をパーソナリティとしてたてるのもよいが、敢えて選曲者を前面に押し出さず、「誰が選曲しているのだろうか？」というリスナーの興味を惹く方法もよいと考えられる。

- 膨大な過去音源をアーカイヴしている USEN が、音源のライブラリー化を行うことは、音楽文化の保存という意味でも非常に社会的意義が大きい。保管困難となった音源の引き取り、資料性と検索性の向上などを積極的に進めるべきである。